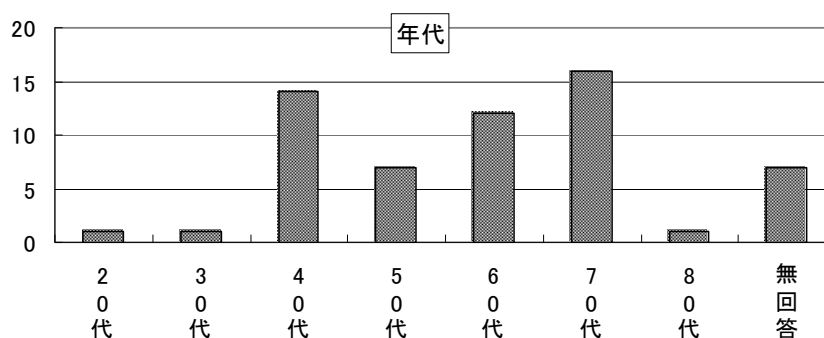
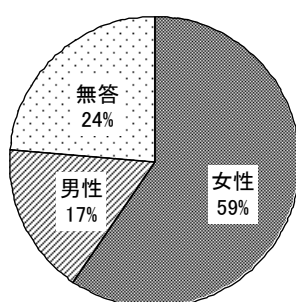


# 2019年度 第10回記念2作品無料上映会 「500ページの夢の束・道草」 報告集

2020年1月26日(日) 室蘭市生涯学習センターきらん

- ・来場者数87、アンケート集計数は59です。感想会のアンケート記入は6件でした。
- ・集計結果を、用紙の質問順に載せています。円グラフの数値は全てパーセントです。
- ・結果に対する考察をしています。最後の欄には、メンバーの思いを一言載せています。
- ・ご来場、アンケートご記入、感想会へのご参加、各種のご支援に感謝申し上げます。

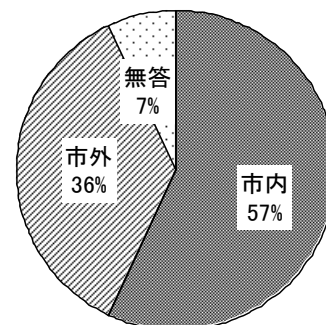
## 回答者のプロフィール



## 1 上映作品の印象

### ① 『500ページの夢の束』の感想

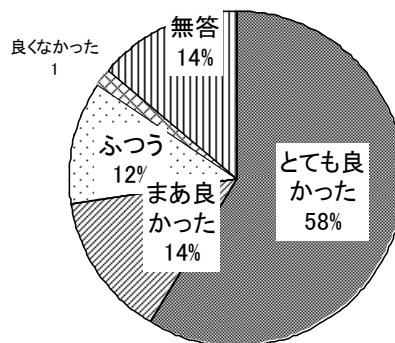
- ・ 映画の選択が良く分かりやすかった。
- ・ 希望の持てる作品でした。
- ・ 生きづらい心の中を少しのぞかせてもらいました。
- ・ 普通に接する事がありそうな気がした。
- ・ 字幕だと見づらい。
- ・ 当人の心の中は見えないけど努力は見た気がした。
- ・ 特性を大げさに表現していない。困り感が分かる。
- ・ 障害のある方も苦難を乗り越えられると可能性があると思いました。
- ・ 字幕が余り見えなかった。
- ・ 親亡き後兄弟姉妹にその責任がゆだねられるのを知ることが出来ました。
- ・ 障害者でも今回の様に才能がある方もおり、日本ももう少し理解できるように周りの方。
- ・ 大変だなと思いました。
- ・ どんな障害があっても心伝わる事多し 仕事体験の中でもありました。
- ・ 女優の演技力が若い頃のケイト・ウィンスレットみたい。
- ・ 主役の方の障害の程度が最初どのくらいかわからないけれど、家族の受け入れの難しさ、受け入れたいとする気持ちの葛藤が描かれていて良かった。
- ・ 日本の障害を取り巻く切り口と異なる取り上げ方で良かった。



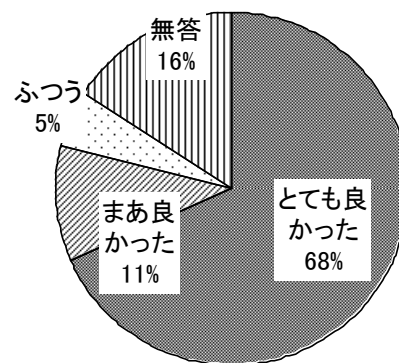
- ・ 特別な能力がある事がわかりました。すばらしいです。
- ・ 普通、普通と言われるけれど、一体何が普通なのかと思われました。百人百様、千人千様であると認められる自分と社会になればと。

## ② 『道草』の感想

- ・ 卒後の社会参加で自立をしながらスタッフと二人三脚はとてもステキな将来だと思いました。ここら辺でもあれば…。さすが都会という面も。
- ・ 良い時も悪い時も撮られていたので。
- ・ このような作品を世に出そうと思われ、作られ、上映されていることに。
- ・ 男性の知的障害者の暴力、大変ですね。どうしていいのか答えが見つかりません。
- ・ 知的障害者の生活の様子を知ることが出来て良かったです。
- ・ とても良かった。重度障害者の地域生活を支えるありがた、支援について勉強になりました。
- ・ 第三者が介入することで、当事者や家族に良い変化があるのは素晴らしい。
- ・ マンツーマン撮影ですが、障害者のストレスも行動に出ており全体の部分も見えかったです。
- ・ 暴力でやられてから、自分も暴力をふるう様になった。その通りだと思います。
- ・ 実生活が見られて生活状況がわかった。制度的なことがわからないのですが、一人暮らしできるというのは驚いた。そして介護者が24時間体制でいること！！しかし、食事の様子を見てみると、介助者により食事摂取状態が悪く健康状態が気になった。手をあげてしまう本人・家族どうしているのか心配。手をあげるとき...どうしたらいいの？ 精神科になっちゃうの？
- ・ 映画2作通して、自分のやりたいこと行きたいことを叶えた時の本人の嬉しそうな姿が印象的でした。本人を支え、時に根気強く向き合う家族、支援者の姿にも考えるものがありました。
- ・ 利用者を取り巻く環境がとても温かかったです。
- ・ 自閉の方が自立して生活する様子がみられた。支援者がいるとできると思った。この支援者の方は経済的に生活できているのか気になった。
- ・ 道草は理解しやすかった。

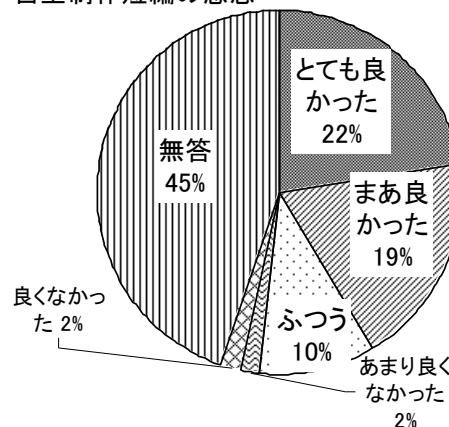


「500ページの夢の束」の感想



「道草」の感想

### 自主制作短編の感想



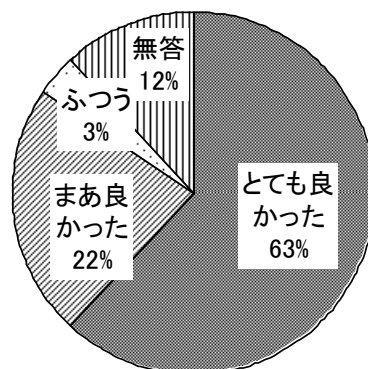
### ③ 『自主製作短編映画』の感想

- ・ 自分達の素直な思いを知ることができました。
- ・ 音が響いて聞き取りにくいところがありました。
- ・ 最初の観る会は音をはっきり聞き取れなかった。

## 2 開催方法についてのご意見

- ・ 創作とドキュメント両方見られた。
- ・ 今回、新聞で見ましたが、市内の小中学校に支援級があるので学校にもポスターがあるとありがたい。
- ・ 字幕の時は背の高い男性の方は少し後ろへ座って頂けるとありがたい。
- ・ 2本立てで、盛りだくさん良かったです。
- ・ 上映する機会をもっと増やし、多く人々に理解してもらいたい。
- ・ 1本分しか見ていないけど、2本続けては長いなあと思いました。
- ・ 土日仕事なのでなかなか参加出来ません。残念。夜に上映会があると参加しやすい方もいるのかな…と。
- ・ きらは場所は良いと思います。
- ・ 開催時間が早かった。無料で映画2本も観れるのはとっても良いのですが、できれば1本にして懇談会の時間を早めにとってほしい（本人さんと話す機会に）
- ・ この様な上映会素晴らしいと思います。ありがとうございました。
- ・ ゆったりかけれるイスあれば 固いので 2時間はおしりが痛い
- ・ マイク使用時は横を向くと音が小さくなり聞きにくい口の正面にマイクを向けて話して下さい。
- ・ ドラマ1本、ドキュメンタリー1本の流れは良い。
- ・ 工大より寒くなかった。
- ・ 場所が広くて良かった。
- ・ 広く報らせることですかね。広報の小さな記事で知りました。
- ・ フラットな床面は後方の人が見にくかったのでは？

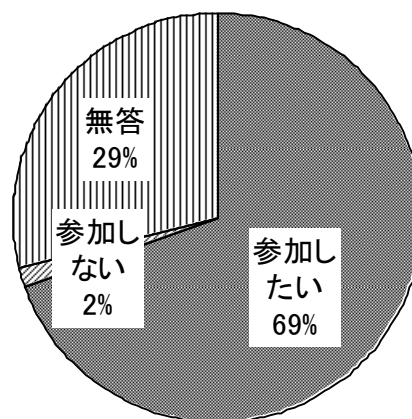
## 3 映画会全体としてはどうでしたか



映画会の全体評価

#### 4 発達障害について思うことがあればどうぞ

- ・ 職場でのコミュニケーション障害など取り上げてほしいです。
- ・ 自分も息子も障害があるので、もっと世に自分も他者も発信することが増えればいいと思います。
- ・ 世の中には色んな人がいていいと思う。小さいうちから障害のあるなしに関わらず共に過ごすことが大切だと思うが、今は障害があると分けられて教育されているのが課題だと思う。
- ・ 周りが理解することが大切だと思います。ありがとうございました。
- ・ 障害者と共に生きることの大変さ周囲の人達の大変さを身近に感じました。
- ・ まだまだ世間の認知度が低いのでもっと多くの方に上映会に来てほしいです。
- ・ 自閉スペクトラム症の子供の療育をしています。これからの時代をどう生きて行くのかと思っています。
- ・ LD の子供は普通学級で大丈夫なのでしょうか？係る先生達はどこまで理解しているのか
- ・ 昔は認められなかった。今は理解され知らない人に伝えたい。
- ・ 本当にむずかしい問題と思います。でもなるべく関わって行く事が大事ではと思います。
- ・ 当事者の声が聞けるようになったのは良いことです。
- ・ 本人、その人が感じる感じた事言いたい事を受け入れられるまたは伝えられるといいな
- ・ 「暴力でおさえると、暴力で表すようになる。」と言っていた事が印象に残りました。
- ・ 診断のなされていない障害者がどのくらいいるのか気になる。
- ・ みんな違ってみんな良いとみんなが思えると良いですね。
- ・ 孫も ADHD らしく、遠く離れて暮らしていますが、一年一度会うことですら手を焼きます。ですからどうすればと思い参加してみました。
- ・ 今後は益々障害があってもなくてもみんなで支え合って暮らしていこうというボーダーレスな考え方が必要と思っています。自分ももっと学んでいきたいです。
- ・ 障害があってこそその人、それぞれの個性だと思います。
- ・ とてもむずかしいと思いました。
- ・ 親に対しての援助を強く願う
- ・ 知らないことばかりでした。勉強したいです。
- ・ 近くに障害の人が居る。
- ・ 個性ととらえている。
- ・ 人間皆障害は何かあるはず。勉強になります。
- ・ 支援する方法をもっと知りたいと思う。
- ・ 生きづらい世の中だと思うので、自分も良き理解者になりたい。



来年の参加予定

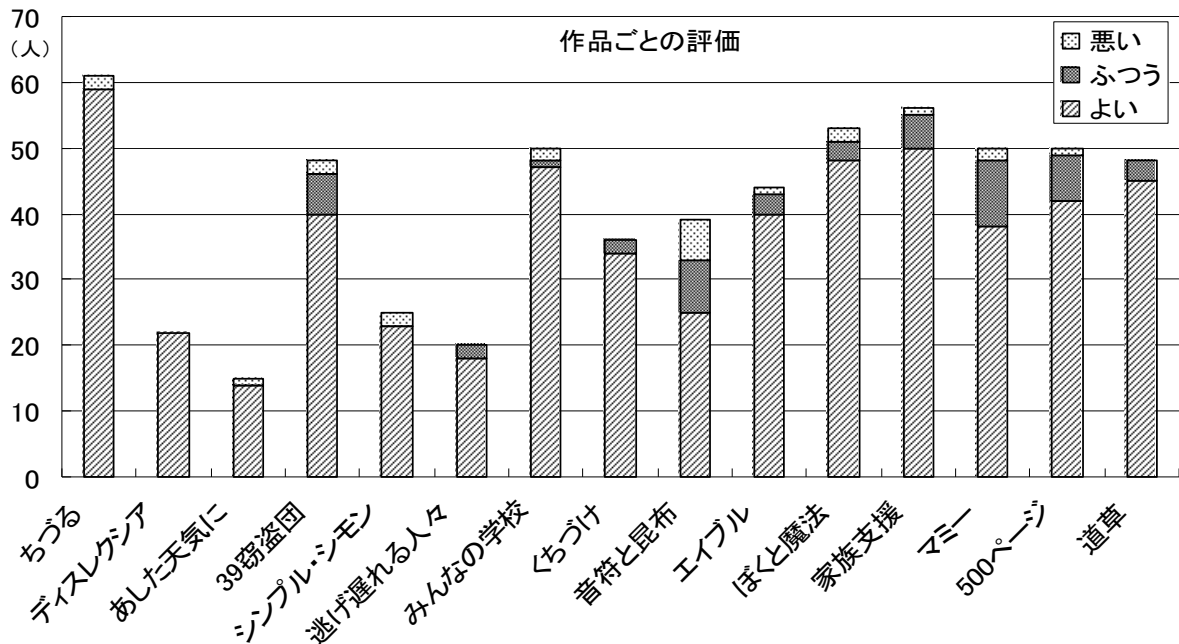
#### 5 来年も映画会に来たいですか

|       |          |
|-------|----------|
| 「はい」  | 41 (69%) |
| 「いいえ」 | 1 (2%)   |
| 無回答   | 17 (29%) |

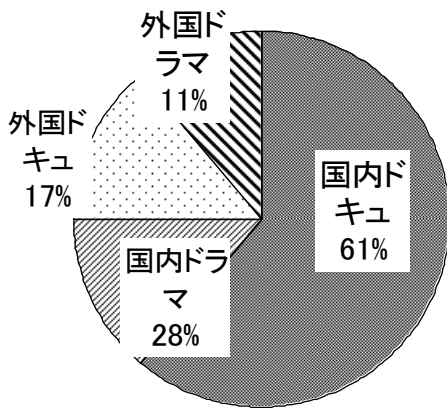
以前に観た映画はありますか (人)

| ぼくみ | ちづる | DX | 窃盗 | シモン | みんな | 音符 | 魔法 | Mommy | 初参加 |
|-----|-----|----|----|-----|-----|----|----|-------|-----|
| 3   | 4   | 2  | 5  | 4   | 6   | 4  | 4  | 10    | 42  |

|                                       |                                |
|---------------------------------------|--------------------------------|
| 2010.1.20 室工大 N401<br>ぼくはうみをみたくになりました | 2016.2.6 室工大ホール<br>みんなの学校／くちづけ |
| 2012.1.22 室蘭市民会館 ちづる                  | 2017.2.4 室工大ホール<br>音符と昆布／エイブル  |
| 2013.1.20 室蘭市民会館<br>DX な日々／あした天気になる？  | 2018.2.3 室工大ホール<br>ぼくと魔法の言葉たち  |
| 2014.1.25 室蘭市民会館<br>39 窃盗団            | 2019.2.2 室工大ホール<br>Mommy マミー   |
| 2015.2.7 室工大ホール<br>シンプル・シモン／逃げ遅れる人々   |                                |



6 どんな映画を希望しますか



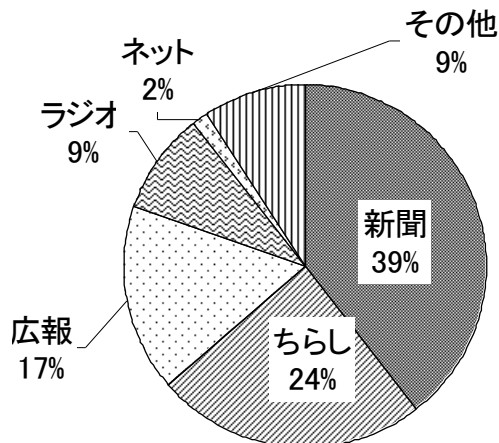
希望する作品の具体例など

- ・ おもしろい (興味深い) ものならジャンルは問いません
- ・ 生活保護
- ・ TV・映画等なかなか機会がないのでどんなものも興味あります。
- ・ 音符と昆布、くちづけ

希望の作品種類

## 7 映画会を知ったきっかけ

(数字は実数)



上映会を知ったきっかけ

|                   |    |
|-------------------|----|
| 新聞                | 26 |
| 北海道新聞 14、室蘭民報 9   |    |
| ちらし               | 16 |
| きらん、しんた21、フォレスト鉱山 |    |
| 市の広報              | 11 |
| ラジオ               | 6  |
| NHK 第1放送、FMびゅー    |    |
| その他               | 7  |
| 知人、友人など           |    |

## 8 来場の動機(記入のあったもの)

- ・ 前回、残念ながら来る事ができなかったが、興味はありチェックしていた。
- ・ 息子の将来の参考になれば
- ・ いつも気になっていますが、タイミングが合わず少々ムリをして参加(笑)
- ・ 孫(小学校4年・男)が自閉スペクトラム症でグレー期が長く親の苦しみははかりしれない。
- ・ 本人も伝わらぬ思いに苦しんでいる様子がある。
- ・ 障害のある子の今後の生活をどうしたらよいか考えるきっかけに
- ・ 20代のとき一度自閉症のドキュメンタリー映画を見ましたがその後見たことがなかったので。
- ・ 興味ありの第1歩です。
- ・ 孫にその様な傾向が見られ参考になればと思い参加しました。
- ・ 少しでも発達障害の児童・生徒への理解を深めたいので
- ・ 一般に言われる様になりましたが、一度参加したいと思って
- ・ いつも工大で遠いので、近くなので初参加でした。
- ・ 発達障害の「ほたて」で働いているので、知りたい事が多い
- ・ 理解したい。知人に暴力行為の出たきたお子さんがいて、その為
- ・ 以前にも参加経験があるため
- ・ 福祉関係の仕事をしており、ドキュメンタリーや福祉作品に興味があるため。

## 感想会の感想

(17名参加。その内スタッフは12名。アンケート記入は6名でした。)

### 評価とその理由

- ・ 一人一人が理解しようとしている。(とても良かった)
- ・ 自分自身の体験などで色々な方々の意見が聞けて良かったです。(とても良かった)
- ・ 皆さんの意見、当事者の方の気持ちを聞いたので。(とても良かった)

- ・ 全員から、映画についての感想が聞けたことは良かった。時間がもう少し必要だった。(とても良かった)
- ・ 当事者様の家族さんの意見も聴けたので良かった。(とても良かった)
- ・ みんなの感想が聞けたから。(ふつう)

### 社会と当事者の関係について

- ・ 社会の人々とかかわりを持つ事。
- ・ 小さい頃からわけて育てられていると、自分と違う事をしていると、変な子と決めつけられているから、小さいうちから共に学ぶ事が大切だと思う。
- ・ 環境をととのえる事が、家族や当事者のためになると思います。

## 感想会での主な発言の記録

(⇒のマークは、すぐ上の発言を受けた内容です)

〈500ページの夢の東〉

- ・ 主人公の兄弟愛が感じられた
  - ⇒どこかで怖いが最後は通じた
- ・ 前に突き進む、賞をとれなかったが応援されたのが今後の励みというような良い映画
- ・ 想像以上
- ・ これからも文章を紡いでほしい
- ・ また読みたい、と言われた。
  - ⇒ (主人公の) 励み
- ・ 親がいないと責任が兄弟に
- ・ 施設にゆだねるといふ肉親故の葛藤、もどかしさ
- ・ 発達障害は知的障害を持たないこともある
- ・ 支えが必要
- ・ 映画としても楽しめた
- ・ 人よりもずば抜けた才能も
- ・ こだわりもさりげなく
- ・ 障害者の理解が深まる
- ・ 家族は切羽詰まった状態でいっぱいいっぱい
- ・ ほのぼの
  - ⇒高い水準で恵まれている中で自分がやりたいことにチャレンジ
- ・ 特性をよく出していた
- ・ コモンセンスがあれば障害者とも付き合える (?)
- ・ 上手に付き合える (周囲の人々)
- ・ 自閉症なのに凄い
- ・ チャレンジ精神が凄い

〈道草〉

- ・ 生々しい場面
- ・ (出演当事者の) 岡部君の絵が上手で、才能がわかった
- ・ 行動障害があっても生活できているというところが見られてよかった
- ・ 介護者のストレスもあるので自分ではできない
  - ⇒介護は大変
- ・ 食べるのが好きという共通点があることが疑問に思った
- ・ やまゆり園——胸に突き付けられる
  - ⇒受け入れる度量はあるのか
- ・ 過激発言や暴力への衝撃
  - ⇒このような場面に出くわしたら緊張する
- ・ 大変さが身に染みた
- ・ 第三者の力が必要
- ・ 本人も大変だがそれを支援する大変さや支えている姿もよい勉強になった
- ・ 家族だけでは難しいのか
- ・ 暴れたりする男性が外出時、穏やかに
- ・ 映画「道草」のようになってほしい
- ・ 外に出たときの笑顔が印象的だった
  - ⇒このようなものを作るためには支援者が必要
- ・ 障害があるって大変、内々にこもる感じ
- ・ やまゆり園のこともあり、このような映画が広まってほしい
- ・ 知的障害を持つ息子が、友人の支えで楽しく
  - ⇒参考になった
- ・ 施設通いで作法ができていた
- ・ 優しさや良さ等の特性もある
- ・ 今までつながりがなかったが家族と接することができるようになった
- ・ 生活が長いから良いというものもある
- ・ 介護士は良し悪し
- ・ センターにお願いしても入れたままにしないと考えた
- ・ 頭がいい、機転が利く
- ・ 介護者の発言に「このような人たちがいることに意味がある」とあった。
  - ⇒やまゆり園の事件で、加害者は逆のことを言っている
- ・ こういうきっかけで能力の有無以外のところにも意味があることがわかる
- ・ 理解を深めれば救いがあるかも
- ・ 障害者が差別されない社会

〈両方の映画に関連〉

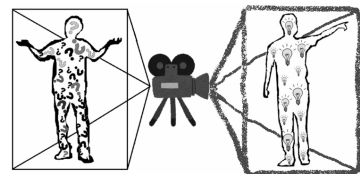
- ・ 心に残った
- ・ このようなものがあることを知らなかった



- ・ 良い機会
- ・ 個人差があることを知った
- ・ 地域の交わりに出すことで保護者とのかかわり方も変わる
- ・ 支援者がしっかりしてる

〈その他〉

- ・ ありがたい機会
- ・ 息子が自閉症
- ・ 社会復帰したときにどうすれば良いかの参考になった
- ・ 去年、子どもがグレーゾーンと診断された。
  - ⇒親として勉強になった
- ・ 映画「閉鎖病棟」も取り入れてほしい
- ・ 自立、想像できない絶望
  - ⇒家族以外の支えがあれば変わるかも（？）
- ・ 能力の有無に関係ない
- ・ チラシを見て来た
- ・ 息子がダウン症
  - ⇒人間関係が身に付くため共通学級
- ・ 実際にこのような支援を受けたい
- ・ 小さい時から身に着けておく
- ・ 困っていることを知ることで障壁があることを理解できる
- ・ 障害があっても乗り越えられる
- ・ 息子がADHD
- ・ どうすれば良いのか
- ・ 絶望感からいかに離れるか
- ・ 普通とは何か考えさせられた
- ・ 障害は個性である
- ・ 周りと違うからおかしいのか



## **考察1** 映画会全体について

今年度は、上映会活動を始めて10回目という記念の年となるので、例年とは違う2つの取り組みをしました。1つ目は例年、工大の施設（大学会館多目的ホール）を利用していたのですが、今回は初めて室蘭市生涯学習センター「きらん」で開催したことです。2つ目は映画会のメンバーが出演し企画から撮影、編集まですべてに取り組んだ自主短編映画の撮影です。

このような特別企画の実施によって、昨年同様かそれ以上の来場者数（例えば100名を超える人数）

を予想していました。ところが実際の来場者数は87名にとどまりました。開催の1月26日には、市内各地で大きな行事があったことで、上映会に参加できなかった人もいたようです。この結果を踏まえ、来年度はより多くの地域の方に参加してもらえるように、開催日などの検討も含め、上映作品の選定や宣伝活動などに力を入れて取り組むことが課題だと思いました。

アンケート回収率については、記入する机を会場内に置いたことにより、上映会分のアンケート回収率は昨年度より1割も上がり、68%の方に回答して頂きました。これは、大変ありがたいことだと思います。報告集作りの基となるデータの信頼性が高まったといえます。では以下に、それぞれの集計結果から得られた考察を記入していきます。(文責：佐藤、以下の記名以外も佐藤が担当)

まず、**作品の評価**についてですが、「とてもよかった」と「まあ良かった」を合わせた回答(無回答を省く)は、「**500 ページの夢の束**」が8割以上、「**道草**」が9割以上となり、高い評価が得られました。どちらの作品も前年度上映の「**Mammy**」よりも好印象という結果でした。

上映1の「**500 ページの夢の束**」のコメントには、希望の持てる作品だった、障害のある方も苦難を乗り越えられる可能性があると思ったなどの意見がありました。さらに、会話ではよく普通と言われるが、一体何が普通なのかと思われた、どんな障害があっても心は伝わる事は多い、日本の障害を取り巻く切り口と異なる取り上げ方で良かったなどの意見もありました。

このような意見によると、ハリウッドへの冒険に出る主人公とその愛犬の姿から、鑑賞された方々には発達障害に関わっての希望や可能性を感じていただけたのではないかと思います。また、映画の選択が良く分かりやすかった、女優の演技力が若い頃のケイト・ウィンスレット(映画「**タイタニック**」に主演)みたいだったなどの意見もあり、純粋に映画として楽しんでいただけた方もいらしたようでした。作品の中では、主人公がペット禁止のバスに愛犬と一緒に乗ったり、バス運賃が足りずに車体下部の荷物入れスペースにもぐり込んだりするなど、ハラハラさせる場面もあって、このようなことが純粋に映画として楽しめたという意見につながったと思います。

なお上映に際して、後ろの席でも字幕が見やすいように席の真ん中右にディスプレイを設置しました(この機械からの音が大きくて、短編映画が聞き取りにくかったようです)。それでも、字幕だと見づらいといった意見がありました。この意見については、今年度初めて「きらん」の多目的室を利用しての上映だったこともあり、今後の字幕上映の際の改善に役立てたいと思います

上映2の「**道草**」についても全体的に高評価となりました。知的障害者の生活の様子を知ることが出来て良かった、重度障害者の地域生活を支えるありがた、支援について勉強になったなどの意見があり、ドキュメンタリー映画として制作者の意図するところが、来場された皆様に伝わったと思いました。作品の内容は、知的障害者のユーモラスな行動が時に会場を笑いに包む反面、暴力や攻撃的発言によって近親者や介助者が引き受けている大変さも描かれている作品で緊張感もありました。さらに、介助者によっては、当事者の食事の摂取状況が悪くなる例があり、健康状態が気になったとか、介助者は経済的に自立できているのか気になった等などの、映画の中では詳しく触れられていないことへの疑問や意見もありました。これらについては、調べて知り得たことがあれば、機会を設けてお伝えしたいと思いました。

**開催方法**についてです。上映時間に関しては、2本立ての盛りだくさんで良かった、ドラマ1本とドキュメンタリー1本の流れは良いという意見があった一方で、1本分しか見ていないけれど2本続けては長いと思ったという意見もありました。しかし、今年度は、10周年記念の上映会であることや、本プロジェクトへの大学からの予算配分が例年より多かったことを踏まえると、結果的には2作品上映でよかったと感じています。

無料で映画2本も観られるのはとっても良いのですが、できれば1本にして懇談会の時間を早めにとってほしいという声もありました。上映場所についてのご意見で、きらんは場所は良いと思う、工大より寒くなかった、場所が広くて良かった、という意見があった一方で、フラットな床面は後方の人が見にくかったのでは、字幕の時は背の高い男性の方は少し後ろへ座って頂けるとありがたいという意見がありました。

きらんでは、多目的室3室を通して借りた上映のために、工大の大学会館ホールと違って、前後の席に段差がないので見えづらいことを想定していました。そこで、椅子を交互にずらすように配置するような工夫をしましたが、それでも見えづらさについて改善要求の指摘をされる結果となってしまいました。今後の会場選定の参考にさせていただきます。

**発達障害について思うこと**については、知らないことばかりであったため勉強したいという人や、身近に当事者がいる人など、発達障害についての知識の有無に関わらず様々な方が上映会に来てくださったことがわかります。

さらに、意見の中には「障害者とともに生きることの大変さ、周囲の人たちの大変さを身近に感じました」ということや「生きづらい世の中だと思うので、自分も良き理解者になりたい」などという意見を書いてくださった方もいました。このような考え方を持つ定型発達（健常者）の方が増えることによって、少しずつ当事者との壁がなくなってくると考えます。

一方で、中には「とても難しいと思いました」という意見も多く見られました。「発達障害と定型発達が分かり合う世の中を作る」ということは簡単な話ではないと思いますが、理解者が増えることにより、少しずつ当事者との壁がなくなっていくであろうと考えています。ですから、近い将来こうした理想が実現する世の中になるというのは、夢ではないのかもしれませんが。（文責：稲田）

**次回の映画会への参加**については、「参加したい」という割合が前年度の56%に比べると今年度は69%と上がりました。「不参加」という割合は昨年度と変わらず2%でした。「参加したい」という割合が多くなった要因は、昨年度に上映した「Mommy」は内容が難しくすぐに理解が追いつかない、内容が暗いなどの意見があったのに対し、今年度の「500ページの夢の束」「道草」は登場人物に困難や苦難が待ち受ける場面がありつつ、最終的には前向きな終わり方となっている映画を上映できたためだと受け止めています。

しかし興味深いことですが、「以前に観た映画はありますか」の質問で過去の9回分（全15作品）のうち「Mommy」が10人と一番多くなりました。この結果は、「Mommy」が去年上映したばかりで単に記憶に残っているということなのか、あるいは映画そのものが、意見の賛否が分かれそうな内容であることが、かえって強い印象を残して発達障害について考えるきっかけとなったためなのかもしれないと考えました。

**作品選定経過**についてですが、10作品ほどが候補に挙がったものの、例年に比べ順調に選定された印象です。今回選定された「500ページの夢の束」は、前年度にもメンバーの議論で関心が集まっていた作品でした。できれば前回でも上映したいと考えていた作品でしたが、当時はまだ、自主上映の手順が公開されていなかったので上映を見送った経緯があります。今回はこの作品を取り上げることができるようになって、実際に選定の運びとなりました。

一方、ドキュメンタリー作品については、何度かの議論の後に、「道草」と「だってしょうがないじゃない」の二作品にしぼられました。発達障害の当事者個人に密着して、その生活を記録した「だってしょうがないじゃない」も興味深い作品でしたが、作品の時間が長いなどの点などから、最終的には「道草」を選びました。上映会には、これら二作品に加えて、10回記念の自主短編映画を最初に上映するという構成としました。(文責：三条)

**映画会参加のきっかけ**については、今回の結果によると、新聞から情報を得たというケースが最も多くなりました。北海道新聞と室蘭民報の紙面に記事が掲載された影響が大きかったと思います。ちらしによる情報提供も、例年通り効果的でした。ちらしを置かせてもらう場所では、開催会場であるきらんをはじめ、例年賛同・協力して頂いている施設や周囲の方々に、この場を借りてお礼申し上げます。どうもありがとうございます。理解者が増えていることを、心強く感じております。

また、参加のきっかけとして、市の広報誌、ラジオ放送などもありました。こうした媒体には手続きが必要になりますが、今後も少しでも多くの方々に情報を伝えていくために、申し込みを続けていく必要があると思っています。他にも、友人知人の紹介で上映会のことを知ったという回答がありました。上映会への関心が、多くの方々に広がっていることに感謝しております。(文責：三条)

**来場の動機**についてですが、多く上げられていたのは、以前にも参加したことがある、一度参加してみたかった、興味がある、発達障害を理解したい、などという理由でした。次いで多かったのが自分自身や近親者が発達障害の当事者であるという理由でした。前年度まではこの2つが逆になっていました。このことから、当事者や関係者だけでなく広く一般の人々が発達障害を理解したいと考えるようになって来た、と考えることができます。こうした傾向があるというのは、私たちの活動の目指すところであり、喜ばしい結果だと思いました。

また、福祉関係や障害者施設で働いている方も参加して下さっていて、このような方々と発達障害の不安や苦しみを抱えている方が知識や経験、支援の体制などについて情報交換するきっかけを作ることができればよいと考えました。

**作品ごとの評価**(5ページ)について、全15作品(初回の「ぼくはうみをみたくなりました」は、アンケートの形式が異なり集計に適さないので除外)を比べてみました。グラフの数値は人数です。これによると、最高評価を得たのは「ちづる」でした。他の高評価作品として、「発達障害と家族支援・ぼくと魔法の言葉たち・みんなの学校・道草」と順に続きます。

これらの作品は、実際の当事者に取材するなどして製作された、いわゆるドキュメンタリーの系列に属します。多くの来場者にとっての、受け止めやすさや、表現の分かりやすさなどから、高評価につながったと思われます。そうした傾向は、次回作品の希望調査(国内ドキュメンタリーの希望が最大)にも表れているといえます。

一方で、鑑賞時には解決できないテーマを映画から与えられて、自分の中で何度も考え直すという作品にも貴重な価値があります。こうした作品は、ドラマ仕立てである場合が多いです。外国の制度や国民感情などを知るためには、外国の作品は限られた機会を提供してくれます。ドキュメンタリーの迫真性と共に、ドラマ作品がもつテーマ性についても、来場者の皆さんと一緒に考えていけるよう、今後の作品選定を充実させていく必要があると考えています。(文責：今野)

## 考察2 感想会について

感想会の評価では、「自分自身の体験などで色々な方々の意見が聞けて良かった」という意見や、「当事者様の家族さんの意見を聞けて良かった」というような意見をいただきました。一人一人が発達障害について理解しようとしているということが、コメントから理解することができました。しかしその一方で、「時間がもう少し必要だった」という要望もいただきました。時間配分などは、今後の活動において参考にすべき点であると思います。

今回の感想会で述べていただいたものとして、当事者についてのことや介護者のことについての発言が多くみられました。例えば、「500ページの夢の束は、どこか怖いところがあったが、最後は主人公と姉の間の姉妹愛が感じられた」や、「自閉症であっても人よりずば抜けた才能もある」などの意見をいただきました。この映画は、見ていて辛い部分があるものの、発達障害の悪いところばかりではなく、才能もわかりやすく表現されていたため、発達障害について理解するにはとても良い映画であったと思います。「道草」については、「行動障害があっても介護者の支えがあるため生活ができているところが見られてよかった」や、「過激な発言や暴力に衝撃を感じ、もし自分が同じ場面に出くわしたら緊張する」などの意見をいただきました。この映画は、「もし自分が介護者の立場になったとき」という状況を考え、そのようなときにどうすればよいのかということや、どうすれば当事者にも生きやすい世の中になるのかということ、考えさせる映画であったと思います。

今回、感想会に参加してくださった方の中には、ご家族に当事者がいるという方が多く見受けられました。それ以外の方でも、発達障害についての知識を持っている方や関心がある方が多かったと思います。このようなことは有り難いことではありますが、もっと広く様々な立場の方に対して発達障害について知っていただきたいという私たちの趣旨からすると、むしろ発達障害についての知識をあまり持たない人々にも参加してほしかったと思いました。さらに今回は、これまでと比べてスタッフ以外の参加者が少なかったと感じました。どのようにすれば積極的に感想会に参加していただけるのかということや、どうすれば少しでも居心地の良い話し合いの場を作れるのかということなど、様々な改善点について考えていく必要があると思っています。(文責：稲田)

## 今年度の取り組みで思ったこと

## メンバーのひと言

### ・発達障害の映画を観る会 代表 4年生 佐藤公治

この一年間は、映画会10回記念の節目の年にリーダーとして活動できて光栄でした。しかし、会場を室蘭市生涯学習センター「きらん」に移しての開催、自主映画の製作、例年より大幅に多く支給していただいた予算などによって10月に活動開始したとき、私はプレッシャーを感じていたのでした。でもそれは結果的に多くの人に支えられ、乗り越えられて上映会を無事に開催することができました。参加者の皆様、本会のメンバーの皆様をはじめ、本上映会に携わって下さった全ての皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

来場者数についてですが、最近の2年は連続で100名を超えていたのに、今年度の上映会ではそれが叶いませんでした。これには、リーダーとしてもっと自分から何かできることがあったのではないかと考えています。今後、社会人としてこの経験を生かして日々努力していきます。

私たちは、発達障害を多くの人々に理解してもらうことを目標に活動しており、今後も活動していきます。そして私個人としては、多くの方が勇気をもってどんなに些細なことでも声を上げたり活動したりすることで健常者と障害を持つ人が隔てなく過ごせる社会が実現できると思ってもらえれば幸いです。

### ・司会担当 4年生 山岸格也

今年度で、この観る会に参加し始めてから2年目となりました。今年度は卒業研究のため、なかなか参加することができませんでした。力になれず申し訳ないと思っております。

今回の観る会の課題として、学生の来場がなかったことが挙げられます。未来を担う学生に映画を観てもらうことで、他人に理解を示さない社会の風潮をボトムアップで変えて欲しいと考えております。学生に足を運んでもらえるように、興味、関心を持ってもらえるよう努力が必要であると考えております。

### ・会計、物品調達・考察執筆 3年生 稲田耕太郎

「500ページの夢の束」は、発達障害といわれるとどうしても症状など悪いところに視点を置きがちですが、この映画は発達障害の良いところを見ることができる映画であったと思います。

「道草」は、どのようにすれば発達障害の人が生きやすい世の中なのかということや、介護する際にどのような苦しみがあるのかということなどを改めて考えさせられる映画であったと思います。

「感想会」は、映画を観てどのように感じたのかについて、自分とは異なる考え方が様々あり、そのような考え方を知ることができる場であったと思います。このようなことは、発達障害についての正しい知識をつけられる良い機会になったと思いました。

### ・会場準備、アンケート集計・考察執筆 2年生 諏訪舜輔

今回初めての参加でしたが、自分にとって貴重な体験をさせていただきました。困っている人の力になりたいかでも一人では何ができるのか分からずに足踏みしていた僕にとって、この活動に参加してみないかと声をかけていただいたことは本当に嬉しかったです。不器用で世間知らず故に迷惑をかけた事もありましたが同時に学び得た事も多く、とても充実していました。まだまだ知らないことだら

けですが、これからも精進して多くの人に尽くせるように頑張りたいと思います。

#### ・社会人メンバー 交渉 河上良枝

映画会 10 周年を記念して、メンバー出演の短編映画製作、来場のしやすさを考慮して会場を「きらん」に変更するなど、新しい取り組みをしました。

今回の 2 作品は「自分だったらどうするだろう」と考えさせられる内容だったと思います。その気持ちを他の人と交流することで、また違った視点が得られるのが感想会だと思います。映画上映だけが多い中で、観る会で行っている感想会は、とても大切な場だと改めて思いました。

#### ・社会人メンバー 広報・文案チェック 笹山正代

今回の映画上映会は、短編映画製作や街中の会場使用など新たな試みがあり、とまどうこともありました。皆が協力し合ってなんとか無事終了できました。短編映画については、来場者の具体的な感想はあまりなかったのですが、メンバーそれぞれの考えを互いにあらためて知る良い機会になったと思っています。

ここ数年発達障害については、マスメディア等でよく取り上げられ理解が進んできたと思いますが、当事者と身近な人が実際に良い関係を作っていくのはこれからだと思います。「500 ページの夢の束」や「道草」でも、理解している人、積極的にかかわる人がいました。これからそういう人がもっと増えて、障害に関わる生きづらさを少しずつ減らしていけるよう微力ながら活動を続けたいと思います。

#### ・社会人メンバー 受付・アンケート集計 塩崎泰子

アンケートの結果を見て、今回映画会に初めて参加の方が 59 名中 42 名ということで、発達障害に関心を持ち始めた方が多くなったのかもしれませんが、関心を持ち始めた方が、発達障害についてより良く理解してもらえる機会を提供できたことを嬉しく思いました。

また、悩みや状況を話すことで、自分一人だけの悩みではないことを理解してほしいです。さらにホッとできる場は大切で、ホッと力を抜くことで当事者との関わりもスムーズに行くことがあるのではと思いました。そんな場を作ることのお手伝いができたらと思っています。

#### ・社会人メンバー 文案チェック・考察執筆 三条将明

メンバーとして活動してから 3 年目に入りました。今回は仕事の関係などから会合にはほとんど参加できず、当日の作業や受付と報告集作成にとどまりましたが、関わったことは嬉しく思います。

映画で登場した人々は、それぞれ特性は異なりますが、前を向いて生きている姿が見えたような気がします。

感想会は、もっと皆さんとお話ししたかったなあと思いました。当事者やその保護者やお知り合いの方々との交流は大事なものと考えておりますので、良いきっかけになればと思っています。来年ももっと多くの方々とは映画を通して情報や思いなどを共有できたらと願っております。皆様、ありがとうございました。

#### ・社会人メンバー 作品選定検討会・受付 外崎良子

ドキュメンタリー『道草』は、緊張してみました。しかし考えてみると、どこにでもいる隣人の一

人だな、思いました。親元から離れて、ひとり暮らしをするというサポートがある、このセットは素晴らしいです。私も良き隣人になれたなら、と思いました。

#### ・社会人メンバー 会場準備 花野由香

年々進化を続けている『観る会』の活動は私の子育てにたくさんのキーワードを与えてくれました。「生きづらさ」「人とのつながり」「自由」「幸せになる権利」「思い」「理解」「知恵」まだありますが、どれも親としての立ち位置の私にとっては受け止め方をしっかり考えなければならない言葉ばかりでした。しかしながら(子育ての)日常にたくさん深刻で危機的な時が最近特に多くすべてに余裕がありません笑。感情が先に立つことが多かったり自分勝手になりがちになってしまったり・・・。

『観る会』の活動の場は学生さん達と社会人メンバーの皆さんとで垣根をつくらぬ雰囲気の中で活発に進められてきました。言いたい事を言ってとても楽しく実生活をリフレッシュさせていただきました。

皆さんと一緒に『発達障がい』というテーマにゆっくり向き合う時間を共有させていただきましたこと心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

#### ・教職授業担当 上映用機器操作・アンケート集約 今野博信

自分達の「観て学びたい」という思いから、学生と社会人のメンバーが協働して一般公開の映画上映会を続けて来ました。それがついに十回目となりました。二十代の学生にとっての十年前は、まだ小学生です。長い年月に感じますが、発達障害などの理解は進んだでしょうか。そうであってほしいのですが、法制度や施設が整っても人々の心の変化にはまだまだ残念な思いがあります。

でも、落胆したり諦めるのではなく、声を上げにくい少数者の思いを受け止め、誰もが生活しやすい社会をつくっていく努力を続けていくしかありません。新鮮な若い発想を支える、大学などの学生支援制度に感謝しつつ、つぎの十年間を見すえた活動を続けていくことにしましょう。

### 第10回記念2作品無料上映会「500ページの夢の束・道草」+自主製作短編映画

2020.1.26(日) 「自主製作短編映画」 12:10～12:20 (観る会制作、メンバーのインタビュー)

「500ページの夢の束」12:25～14:00 (2017年米国 93分 日本語字幕)

「道草」14:10～15:45 (2018年日本 95分 バリアフリー字幕)

感想会 15:50～16:30 【来場87名、感想会6名、スタッフ12名】

室蘭市生涯学習センターきらん2階多目的室 (室工大らんらんプロジェクト採択プログラム)

室蘭工業大学学務課の皆さんのご協力に感謝申し上げます。

※この報告集へのご意見ご感想は、下記のメールアドレス宛にお気軽にお寄せください。

室蘭工業大学「発達障害の映画を観る会」ホームページ <http://muroraneiga.web.fc2.com/>

[eigakai@naravan.net](mailto:eigakai@naravan.net)

February 19th, 2020